

選手全員が一丸となって つかんだベスト4

全国大会に2年連続3回目の出場となった北海道登別明日中等教育学校野球部。これまでは、2大会ともに、2回戦で涙をのみましたが、今年は、日々の練習が実を結び、過去最高のベスト4という好成績を収めました。

「昨年の全国大会のときには、選手それぞれの目標が統一されていませんでしたが、今年の4月に就任した山田浩新監督は、選手全員に全国優勝という明確な目標を示してくれました。今回の結果は、選手全員が一つの目標に向かって、練習に取り組んだおかげだと思えます。正直なところ、目標を達成できなかったもので、うれしいという気持ちよりも悔しい気持ちの方が強いです」と全国大会を振り返る長嶺さん。

きずなを深め もう一度、全国の舞台へ

昨年の全国大会に出場していた選手7人を含む25人の野球部は、日々の実践的な練習により、昨年からは投手のレベルを高め、守備力はもちろん、特に打撃力の向上



▲全国大会に向けて、打撃練習に励む野球部員

に取り組んできたといえます。

中高一貫校である北海道登別明日中等教育学校。6年間を通じて培ってきた仲の良さもチームの強みと話す長嶺さんは、「練習はつらいこともあります、監督やマネジャー、両親など、多くの人に支えてもらいながら、今まで続けることができました。野球を通じて選手同士のきずなを深めることもできています」と野球の魅力を教えてくださいました。

北海道登別明日中等教育学校野球部は、10月6日(金)から、愛媛県宇和島市で開催される第72回国民体育大会高等学校野球競技に出場します。悔しい気持ちを胸にもう一度、全国優勝という目標に向かって、日々、練習に励みます。



きらり

KIRARI

ほっ かい どうのほりべつ あけ び ちゅうどうきょういっく がっ こう
北海道登別明日中等教育学校
野球部

なが みね たか ゆき
主将 長嶺 尚征さん

8月24日(木)から29日(火)にかけて、兵庫県の明石トーカロ球場とウインク球場で行われた第62回全国高校軟式野球選手権大会において、ベスト4という優秀な成績を残した北海道登別明日中等教育学校野球部。練習を重ねてきた選手たちについて、主将である長嶺さんに伺いました。

全国優勝を目指し、 チームがまとまった



平成11年、室蘭市生まれ。18歳。

兄の影響で、小学1年生の時から野球を始める。現在、北海道登別明日中等教育学校の高校3年生にあたる6回生。自ら立候補して主将となり、チームを牽引する。守備位置は遊撃手。